



新たなる挑戦と飛躍に向けて

原 口 紘 丞

あけましておめでとうございます。新年にあたり、ご挨拶^{あいさつ}とご報告をさせていただきます。まずは、新しい年が会員の皆様にとって良い年となることを祈念致します。

さて、学会の使命と役割は、① 研究・技術開発活動の充実と成果発表の場の提供、② 会員の知的・人的交流の促進、③ 分析化学教育の充実と次世代人材育成、④ 効率的な組織・運営体制の整備、⑤ 国際交流の活性化、⑥ 社会貢献への取り組み、であります。本会は設立以来56年の歴史の中で、諸先輩並びに会員の皆様のご尽力、ご協力で、上記の使命と社会的役割を果たしてまいりました。学会の更なる発展のためには、研究・技術開発のための知の啓発と、情報交換・人的交流が最重要であると思っておりますが、昨年も年会、討論会、東京コンファランスが盛会でありましたことは、担当支部の実行委員並びに会員の皆様の御助力の賜物と感謝しております。さらに、研究成果発表の媒体である機関誌、論文誌(2誌)の刊行も順調に進んでおります。特筆すべきことは、Analytical SciencesのImpact Factorが大幅に向上したことであります。

会員の皆様の研究・技術開発の活動を支える研究費については、科学研究費のほか、分析化学関係では文部科学省(JST)の先端分析・計測機器開発事業が継続されていて、革新的な分析機器及び計測技術の開発が期待されています。ただし、政府主導の「科学技術基本計画」や「イノベーション25計画」に基づく大型研究資金の投入に対しては、単なる技術革新にとどまらず、市民・生活者の役に立つ技術・製品開発が求められていることに十分留意しておく必要があります。

分析化学教育・人材育成の面では、本会が従来刊行して好評であった分析化学教育用ビデオの現代版として、本年から分析化学教育用DVDの頒布が開始されます。

組織・運営面では、昨年度理事会から提案されました機構改革案である協議会制による各種常置委員会の統括と組織・運営の簡素化、効率化を試みております。さらに公益法人化制度の見直しに対応するために、本会も役員2年制に移行します。それに伴い2009年度から会長も2年制となりますので、会長のリーダーシップと学会の支援体制の強化が必要になると考え、会長選出方法を含めて検討を急いでおります。

更には、昨年ロシアで開催された国際分析化学会議(ICAS)2006において、ICAS2011の日本開催が決定しました。ICAS2011については理事会に準備委員会を設置して協議を進め、寺部 茂元会長に組織委員長をお願いすることが決まりました。今後早急に準備を進めていただくことになっております。本会の国際交流活性化の促進になると思っておりますので、会員の皆様のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

以上は前向きな現状報告ではありますが、学会としての大きな課題は、会員減少対策であります。本会の会員数は昨年9月時点で7800名を割り込み、過去5年間で約10%減少しております。この会員減少対策に関しては、会員の皆様全員のお恵とご助力による会員増強運動を展開することが必要となっております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とますますのご発展をお祈りします。

[Hiroki HARAGUCHI, 名古屋大学名誉教授, 日本分析化学会会長]